



いのちの現場からのメッセージ

養護教諭 六郷 恵子

私はその日、「いのちの教室」の講師の先生に会うために、済生会高岡病院の産婦人科病棟を訪れていた。もう夜の8時を過ぎているというのに、ナースセンターは賑わい、助産師、看護師が忙しく走っていた。ナースセンターの中心に置かれてある心電図モニターが強調しているかのように点滅していた。たった今、分娩が終わったようである。これが助産師、三歩一貴子さんの職場「命の現場」である。

去る11月14日に、済生会高岡病院の助産師三歩一貴子さんによる2年生対象の「いのちの教室」が開催された。ご自身の助産師としての臨床経験を交えながら、生命の誕生のしくみや、胎児の成長やお産についてお話して下さった。出産する過程で、胎児が、陣痛というストレスに負けないで、力を振り絞って誕生したことを学び、生徒たちは自分は生きる力をもって生まれてきたのだということを実感した。折り紙に空けた針の穴は、命のもとである受精卵の大きさであることを知り、胎内で280日間、2000倍の大きさに成長することに驚いていた。体験学習では、妊婦ジャケットを装着しての妊婦体験や新生児の抱っこ体験もさせていただいた。新生児の人形の目を見つめながら柔らかな表情で抱いている生徒の姿は優美で、まるでマリア様のような姿であった。妊婦ジャケットを装着してもらった男子生徒は、初めは照れくさそうであったが、そのうちに座ったり歩いたりしている姿が見られるようになった。

本校は、「いのちの教室」を開催してから今回で10年目を迎えた。これも、保護者の方々の理解や支援、高岡厚生センター様のご協力のもと、「生きる力を生徒たちに届けたい」と強く願っている助産師さん方の熱意のおかげである。「生きていくのが辛い」「私なんか死んでも誰も悲しんでくれない」と思うことがあるかもしれない。そんな時「いのちの教室」のことを思い出して欲しい。全ての力を振り絞ってこの世に誕生したみなさんは生きることを選びとったことを。



12月の行事予定

3日(月) 期末考査(英、国、技・家)

4日(火) " (理、音、体)

5日(水) " (社、数)

ものづくり講演会

9日(日) 氷見オープンソフトテニス大会

14日(金) 球技大会

19日(水) 保護者会

20日(木) "

給食終了

21日(金) 終業式

23日(日) 天皇誕生日

24日(月) 振替休日

25日(火) 冬季休業開始(～1/7)

いのちの授業(11月14日)

済生会高岡病院 産婦人科 助産師 三歩一貴子先生を講師に招いて、「いのちの授業」が行われました。生徒は、赤ちゃんの生まれてくる様子の動画を見たり、体験学習をしたりして、かけがえのない命の大切さを学ぶことができました。



命ができるのは簡単ではないということを知りました。何億分の1の確率で今の自分があるのだと感じることができました。1人に1つしかない命なので、これからも大切に楽しく生きていきたいです。そして、自分だけでなく他人のことも考えて行動していきたいです。

赤ちゃんの抱き方の体験や妊婦体験をしました。妊婦さんは、日常生活で普段している行動がしにくくなることが分かりました。生まれる時や生まれてからもたくさんの苦労があるということが分かり、命の大切さについて改めて考え直すことができてよかったです。

1つの生命というのは、奇跡でできていると知りました。いつもは面倒くさいと思う弟や妹もとてもかけがえのない存在だと感じました。また映像を見て、出産はとても大変だと思い、毎回陣痛の痛さに耐えながら4人を産んだ母がとても誇らしく思えました。

今まで私は「どうして生まれてきたのか」「生きている意味はあるのか」と思ってしまうことがありました。しかし、出産は母にとっても私にとっても大変なことだったと知り、これからの人生は、自分を大切にして楽しまないといけないと思いました。

小中連携発表会(11月15日)

2年生は、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」で学んだ仕事の喜びと苦労、そして将来、仕事をする上で学校生活で大切なことについて、小学6年生に伝えるという活動を行いました。高岡市が取り組んでいる小中連携のモデル校として、たくさんの方が国吉小中学校の取組を見に来校されました。



- ・小学生は自分で気付けないところを質問していたので、小学生からも学ぶことがあったと感じました。
- ・小学生に分かりやすく伝えるために、まず自分が理解しなければならず、仕事について深く考えることができました。